

第 43 回全日本オリエンテーリング大会(ロング・ディスタンス競技)の総括と今後について

平成 29 年(2017 年)12 月 20 日

第 43 回全日本オリエンテーリング大会プロデューサー 山川克則

今年全日本ロングは成功だったのか？

全日本(選手権)大会と名乗る以上は、規模内容共にその国を代表する大会であらねばならないはずなのに、ここ近年の低迷(多くて参加 600 人程度)、地方協会丸投げの体制を改め、プロデューサー中心に各所にその分野での第一人者を集め中央直轄の大会に改めることから着手しました。また学連にはインカレセレ併催を提案し、少しでも全日本大会のリソースを分けあいながら、全日本大会はすべてのオリエンティアにとって生涯スポーツとしての最高の舞台であることを見てもらうような場でもありたいとも考えました。結果、参加者はセレ含めて目標の 900 名を何とか超えることができました。地図・コース・運営とも高評価をいただけたと思います。勝者を讃えるという意味でも、きちんとした舞台装置は必要で映像栄えする仕掛けは絶対に必要なものと考えますが、今後どこで全日本大会が開催されようと、地図・コース・運営は一定以上のクオリティと最低限必要な統一フォーマットがあるべきだと思います。実は裏では実はギリギリの面もありましたが、何とか未来を向くことができたと考えています。セレに出た人たちの中の声として、こういう全日本ならセレじゃなく全日本として出たかった、という声も少なからずあったことは、自分が仕掛けた改革と同じ方向性をもつもので、収穫だったと評価しています。

経営的にはまだまだ旧式の構造だった。先は厳しいです。

今回の全日本では、大会のコアな部分の各所でその道の国内第一人者を登用しました。今までの地方協会主管の場合と大きく異なる点です。プロマッパーを雇う例はありましたが、今回はマッピング、コースプラン、計時すべてが有償のスタッフでした。責任ある質の担保、それが継続的に供給されなければいけないということでは、これらは今後もボランティアに頼るべきでないと考えています。加えて他にも、MC などの進行役、事前のアオリ記事や WEB 広報などもプロレベルの参画が欲しいと思っているところですが、興味のある方はプロデューサーまでお声かけ下さい。>しかし、それにはまだまだこの参加数・参加費では全然回らないことも実感した大会でした。ここでは詳述を省きますが、過去の全日本大会の決算状況と詳細に見比べてみても、財務状況的なことは何も変わっていない。今回プロデューサー業はそもそも無償という応募条件でしたが、同時作業で行うプロ仕事部分も(調査補助・修正中心)あったわけですが、私は日当 5000 円評価位になってしまいました。ヤマカワハウスという費用の掛からない宿泊所があったこの数字です。これではプロデューサーを今後引き継いで誰かに全日本大会が継続できるようにやっていたと、それはまだまだ難しいことといえます。マッパー以外はすべてボランティアでやれと主張することもありかと思いますが、今やそんなことができる協会は愛知県協会のみ、そしてその求心力は第 42 回の実績数字が示す通り、オリエンティアとして今後の全日本大会という大舞台に求めるものが統一像としてあるのなら、それは財政的にも成り立つものでなくてはなりません。

ロスト・ジェネレーションの問題

もし、今年改革したようなクオリティで全日本大会を継続して欲しいと考えるなら方策は 2 つあります。

1. 今のパイの中でさらなる値上げを行う。
2. 今年全日本でも全然達成できなかった、ロストジェネレーション層に一層の全日本参加を呼び掛ける。

例えば、今回の全日本の M21A の事前エントリー数は 124 名、この数字よりこの年齢層で圧倒的に多くの参加者を集める大会が国内に 4 つ存在します。インカレ、7 人リレー、東大 OLK 大会、そして関東のセレです。今までの全日本にほとんど期待もしていなくて、インカレが一番華やかな大会と思って育った層といってもよく、全日本大会が低迷していたここ 10 数年間に卒業していった 45 歳くらいまでの層全体を指しています。今回の全日本でも M/W21 から M/W45 までは依然低調な参加者数でした。その人たちがさらに年齢を重ねたとき、各県協会はどのような運営体制になるのだろうか心配もしてしまいます。オリエンテーリングを通じて集まっている仲間組織なんだから、その代表たるべき大会は勿論全日本大会でなければならない、という考えで私は取り組んでいます。この層にどう呼び掛けていくのか、それは各組織の存続の問題ともリンクして、非常にまだまだ難しい課題を突き付けられているように思います。オリエンテーリングは生涯スポーツなのでから。

全日本大会の今後

さて、今回のプロデューサーの任期は 2 年ですので、次の第 44 回全日本大会までが、担当大会ということになります。次回は平成 30 年 6 月 17 日岐阜県中津川市の桜の湖で行います。国内で最も中央ヨーロッパの地形に近いといわれている好トレインです。今までリレーやミドル競技としてここ数年ビッグ大会で使用してきましたが、今回ロングが開催できるように新規範囲を拡大し、競技内容的には本年に引き続き、最高のスタッフでお贈りできるように取り組みます。また、その後ですが、私は本職を長くやるものではないとも強く考えていますが、反面たった 2 年でそれが解決できるものではなく、もう数年は実績を積んで方向性を定めることに取り組まないといけなかなとも思っています。まもなく公募が始まると思いますが、もし他に公募に応じて下さる方がいれば私は喜んで譲ります。(そういう動きがあるのなら私は立候補しません。)但し、前述のような問題と向き合いながら全日本大会の質維持と継続性を考えていかねばならない相当に責任の重い職務です。収入もほとんど保証されない、という状況です。私はこれを次代の後継者が進んで取り組めるような好条件の仕事に変えていくことまでが、自分のオリエンテーリング人生の最後に取り組むべき仕事なのだ、と考えてあと一期は必要とされるなら続ける思いでいます。

以上